

# 事務事業評価資料

施策名		青少年の健全育成の推進		所管部局課名	企画県民部県民文化局青少年課				
事業名		「若者ゆうゆう広場」事業の推進		担当者電話番号	育成事業係 078-362-3143				
事業目的		若者が気軽に立ち寄り、集まった仲間と交流すること等を通じ、くつろいだ雰囲気の中で人間関係を紡ぐことができる居場所づくりを支援することにより、若者の社会性を育む。							
事業内容		広場の運営支援(補助期間:5年間、平成20年度以降年間16万円、 但し最終年度は10万円、補助率:10/10) 若者の居場所づくり調整員の設置 情報誌の発行			事業開始年度	平成15年度			
事業に要するコスト	区分	平成20年度決算額		平成21年度当初予算額		平成22年度当初予算額			
	事業費	(7,742 千円) 7,742 千円		(6,008 千円) 6,008 千円		(4,493 千円) 4,493 千円			
	人件費	5,083 千円	従事人員 0.6人	5,016 千円	従事人員 0.6人	4,922 千円	従事人員 0.6人		
	総コスト(+)	12,825 千円	従事人員 0.6人	11,024 千円	従事人員 0.6人	9,415 千円	従事人員 0.6人		
事業の目標		「若者ゆうゆう広場」利用者数50万人(H21~H25)			[目標設定理由] H15~19の利用者(48万人)の5%増				
目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		20年度実績	21年度見込み	22年度目標	達成率(%)		
		目標値	年度				H20	H21	H22
	「若者ゆうゆう広場」年間利用者数	累積50万人(H21~25) 単年度10万人	25年度	147,000人 (0.1 千円)	100,000人 (0.1 千円)	100,000人 (0.1 千円)	147.0%	100.0%	100.0%
評価結果	必要性	・地域で若者が自由に集い、異なる世代や学校間での交流等を行える場が少なくなっている中、地域の特性や若者のニーズを踏まえた体験活動等を通して、社会性を育める場を県が先導的に提供することは必要である。							
	有効性	・利用者数は目標値をクリアし、地域に定着しつつある有効な事業である。 (参考: H19年度約156,000人、H18年度約131,000人)							
	効率性	・県が直接運営するのではなく、地域の実態を熟知し、子どもの遊びのノウハウを持つ青少年団体等の運営を県が支援する手法を取ることで、地域に密着した運営の実現を目指している。 ・また、段階的に運営費支援を削減するなど、コスト削減を図っており、効率的に事業実施をしている。							
	民間・市町との役割分担	・助成期間を立ち上げ時からの5年間とした先導的なモデル事業であるため、県の役割として実施している。 ・今後はモデル事業の成果を踏まえ、若者の居場所づくり活動を地域(市町・地域団体等)が支える気運の醸成等を進める。							
	受益と負担の適正化	・県が青少年団体、NPO等と協働して実施しているモデル事業であることから、県費で運営費助成等を行うことは適正である。							
方向性	新規	拡充		継続		実施手法の見直し			
	廃止	縮小	統合	凍結(休止)	延長	終期設定			
実施方針	実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	PFI	負担割合変更	事務改善	その他	
	説明	運営費補助によって支援を行ってきた若者ゆうゆう広場については、今後、運営団体が抱える活動人材の不足や地域での認知度向上等の課題解決に向けて、先進的団体のノウハウやネットワークを活用した支援を展開する。							